

めざす姿

すべての子どもたちが、人として尊ばれ、安心して育つ環境が保障されており、夢に向かって自分らしく成長しています。子どもの意見が尊重され、子どもの生活する地域やまちづくりに反映されており、「子どもにやさしいまち」が実現しています。

平成30年度(2018年度)の主な取り組み

施策1 子ども参画のしくみづくり

- 「子ども委員会(仮)」の設置
- 施策への子どもの参画推進
- 子どもの意見表明の場の確保

子どもミライ会議を開催し、小学生～高校生世代の子どもたち及び学生リーダーが、まちづくりについてのワークショップを行い、市長・教育長に意見発表を行いました。

また、社会福祉審議会児童福祉専門分科会において、(仮称)第4次子ども育成計画策定に関する基本的な考え方について、子どもたちの視点を取り入れること等の審議を行いました。

平成29年度(2017年度)に実施した「子ども☆ミライフォーラム」での提言の内容をもとに、小学6年生から高校生までの子ども企画委員が、市長・教育長に具体的な実践策を提案する「子ども☆ミライ会議」を開催しました。また、大学生などの学生リーダーが子どもたちの活動をサポートしました。(参加者数:小・中学生及び高校生11名、学生リーダー5名)

施策2 子どもからの相談体制の充実

- 相談窓口についての情報提供の充実

児童館では地域の身近な相談場所として、子ども自身や保護者からの相談に対応するとともに、事例検討や外部講師による講義など職員の専門性の向上を図る研修を行いました。子ども家庭支援センターでは、マルベリーブリッジ・八王子みなみ野駅・南大沢駅・高尾山口駅や「いちようまつり」などで、相談窓口についての周知・啓発活動を行うとともに、職員の専門性を向上させる研修を実施し、相談体制を充実させました。

施策3 子どもを大切にす取り組み

重点施策1

- 「子ども条例(仮)」制定の検討
- 子ども家庭福祉のあり方に関する調査研究
- 児童福祉週間(5月)やこどもの日の啓発

日本ユニセフ協会が実施するCFC(子どもにやさしいまちづくり)検討会に参加し、参加自治体の取組等の把握を行いました。

「子ども家庭福祉のあり方に関する検討会」における検討結果を踏まえ、国や都の動向を把握しました。

児童福祉週間についての啓発や、期間中の関連事業の周知を行いました。

指標

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	29年度 実績値	30年度 実績値	31年度 目標値
1	「子ども委員会(仮)」の設置	市政や子ども施策への子どもの意見の反映	-	未実施	未実施	実施

自己評価

施策	評価	
1	B	子ども☆ミライ会議で子どもがまちづくりについて考え、発言する場を設けるとともに、児童館の活動で、子どもの意見が尊重される取組みを実施しました。
2	B	日常活動の中で子どもや保護者と信頼関係を構築するとともに、職員への研修や相談窓口の周知・啓発に努め、相談しやすい環境づくりを推進しました。
3	B	国や他自治体の動向を把握するとともに、平成29年度(2017年度)の市政100周年記念事業における、子どもたちの提言や作品集を発行し、子どもの意見を知る機会を提供しました。

子どもにやさしいまちづくりを進めるための取組や検討を引き続き行いました。

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

--	--

今後の課題・令和元年度(2019年度)以降の施策の展開

--	--

めざす姿

子どもが楽しみながら社会性、創造性を育めるよう、外遊びできる身近な場所や、好奇心を引き出す様々な体験や社会参加の機会が充実しています。子どもは、いろいろな人との出会いや豊かな経験を重ねていく中で、郷土を愛するところを育み、地域社会の大事な一員として、自立に向けた生きる力を育んでいます。

平成30年度(2018年度)の主な取り組み

施策4 子どもの屋外遊び場や居場所の充実

- プレーパーク事業の実施支援
- 公共施設などを利用した居場所づくり

市民団体が実施した「みはらしプレーパーク」の事業に「市民企画事業補助金」を交付し、より多くの子どもたちが自然の中でいきいきと遊ぶことができる機会を提供しました。

生涯学習センター3館において、土・日曜日と祝日及び夏休み・冬休み・春休み期間、小学生から大学生を対象に、空いている学習室を無料開放し、学習や読書などの利用の場として提供しました。(利用者数:3館計 延べ15,941名)

施策5 社会性や豊かな感性を育む体験機会の充実

重点施策2

- 本市の特色を活かした子どもの体験活動の充実

子どもたちに実体験を通じた育ちを重視する多くのイベントや講座を開催しました。

- 子ども体験塾「オーケストラ・ワンダーランドへようこそ！」
音楽を身近に感じる子ども体験塾「オーケストラ・ワンダーランドへようこそ！」を開催し、迫力ある生演奏の観賞のほか、バックステージツアーや指揮者体験などを通し、音楽への興味と豊かな感性を育む機会を提供しました。(参加者数:1,247名)



- 図書館体験
普段入ることのできない場所(閉架書庫、事務室など)の見学や、図書館の仕事を体験することにより、子どもたちが図書館や本に興味を持つきっかけを提供しました。(参加者数:「図書館体験」(中央館を除く)全館10回、小学生向け:(中央館を除く)全館計104名、中学・高校生向け:(中央館を除く)全館計29名)

●本市の特色を活かした
子どもの体験活動の充実

●ネオテニス親子教室

八王子発祥のスポーツ「ネオテニス」を親子で体験、習得する機会を提供しました。(参加者数:親子 延べ151名)

●ジュニア育成事業

市内の小中学生の競技力向上を目的とした、ジュニア育成事業を実施しました。バスケットボール・バドミントン・走り方(体幹トレーニング)の3種目を実施し、普段は体験することのできないトップアスリートの技術を学ぶことができました。(参加者数:340名)

●動植物の自然観察会

郷土の身近な自然の素晴らしさを感じ、自然を大事にする気持ちを育むことを目的に、自然観察会を開催しました。6月には、ホタルが観察できる湿地周辺を、10月と2月には里山の保全活動が行われている雑木林を歩き、生き物が生息する上で必要な自然環境を学びました。(参加者数:3回計94名)

●親子里山保全体験講座

自然体験活動を通して里山の文化を知るとともに、里山保全の普及啓発を目的として親子里山保全体験講座を3回開催しました、森林散策や里山保全体験、間伐材を使ったクラフト体験などを通じ、親子で楽しみながら里山や自然に触れ合いました。(参加者数:57名)

●八王子浅川水辺の楽校 水辺環境への啓発活動

★ウグイの放流

総合学習の時間を使って、浅川沿いの4つの小学校の4年生と、幼稚園児の年長児と一緒にウグイの放流活動を行いました。自然を大事にする心を育て、幼児の段階から水環境に興味を持つきっかけづくりを目標としました。(参加者数:427名)

★ガサガサ探検隊

生き物の採集やボートでの川遊びなどの体験活動を通して環境教育の充実を図るとともに、子どもたちが浅川の魅力を肌で感じることで、環境を大切にする心、行動力を育てました。(参加者数:144名)



●八王子型児童館事業の充実

子どもたちに遊びを通した様々な体験機会を提供することで、自立性のある健全な育ちを支援しました。

●サマーキャンプ・里山体験

八王子の自然を活かした体験事業を実施しました。(参加者数:462名)

●夏だ!おしゃれにきめよう!八王子まつり・大学生とまなぼう

子どもたちが社会性や協調性を育む機会として、大学生や地域の方との交流活動を実施しました。(実施回数:295回、参加者数:10,677名)

●みんなEnjoyわくわくステージ

バンド活動や特技の向上のために児童館で自主的に練習している中・高生年齢の子どもたちに、その成果を披露する機会をつくるため、12月にクリエイトホールにおいて実施しました。中学生・高校生が実行委員となり、事業の企画、準備、当日の運営を担うことで、自主性や社会性を育み、出演者とともにステージを作り上げることで達成感を得ました。(参加者数:73名)

●児童館こどもシティ・児童館まつり

地域住民や学生などと協力し、「児童館こどもシティ」及び「児童館まつり」を14回開催しました。(参加者数:7,209名)子どもたちに遊びを通したミニ社会体験の場を提供し、社会の仕組みを学んでもらいたいと、食べ物、ゲーム、工作などの模擬店でお客さんとして遊んだり、模擬店で自分のやりたい仕事を探して体験できる場を提供しました。実際の商店街やショッピングモールで模擬アルバイトをする企画事業も実施しました。

●おばけやしきなど子ども実行委員会活動

児童館において、子どもたちの想いを実現するために、子ども実行委員会活動を行っています。元八王子児童館のおばけやしきでは、小学生とともに元八王子中学校の生徒会・美術部、四谷中学校の生徒会・美術部・DIY部の生徒が実行委員となり、アトラクションや仕掛けの作成、入場整理や誘導など準備から運営までたいへん活躍してくれました。(おばけやしき入場者数:1,025名)

●謎解き!脱出ゲーム

子どものグループワークプログラムとして、「謎解き!脱出ゲーム」及び「地球を守るのは君たちだ!」を児童館、あったかホールで開催しました。子どもたちは、提示された課題をグループで話し合い、協力しながら解決することで協調性を育み、全ての課題を解決した後は達成感を共有しました。(参加者数:327名)

施策6 生きる力の基礎を育む取り組みの充実

●基本的な生活習慣の獲得に向けた啓発の充実

保健福祉センターでの乳幼児健診の際、保健師から、子どもの頃からの基本的な生活習慣の大切さを伝えました。(乳幼児健診受診者数:計 10,599名)

●食育の推進

保健福祉センターや保育園、子育てひろばなどで、離乳食・幼児食講座や親子クッキング教室を実施し、食の大切さを親子で学ぶ機会を提供しました。

施策7 赤ちゃんとふれあう事業の充実

●赤ちゃんふれあい事業の実施

児童館では、乳幼児と思春期の子どもたちがふれあう体験事業(参加者数:69名)や、中学生や高校生、大学生が地域の親子とふれあう職場体験やボランティアの受入を実施しました。

また、八南助産師会に委託実施により「赤ちゃんふれあい事業」を展開し、地域の関係機関も協力する中、市立中学校27校で事業を実施しました。(昨年度比3校増加)実施した中学校からは、生徒感想として、命の大切さの再確認とともに、生徒の自尊感情の高まりや家族への感謝の気持ち、赤ちゃんを愛おしく思う気持ちなどが伝えられました。

指標

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	29年度 実績値	30年度 実績値	31年度 目標値
4	市民一人当たりの 都市公園などの面積	計画的な公園整備による屋外遊び場の 充実	11.69㎡	12.18㎡	12.18㎡	12.2㎡
5	「水辺の楽校」の実施	浅川などの水辺をフィールドに、子どもたち が川に親しむ自然体験活動を実施	実施	実施	実施	実施
	「宇宙の学校」参加者数(子ども)	宇宙や科学をテーマとする工作や実験を 行う体験教室を実施。	170人	200人	202人	170人
7	赤ちゃんふれあい事業の実施	思春期の子どもたちが、赤ちゃんといふれあ う取組を推進	実施	拡大 (24校)	拡大 (27校)	拡大

自己評価

施策	評価	
4	B	遊具の計画的更新や老朽化したトイレの改修、洋式化をすることで、安心して楽しめる公園づくりを進め、公園の利用促進を図りました。
5	A	親子で参加・体験できるイベントの充実に取り組み、子どもたちの成長をサポートしました。特に児童館事業においては、中高生が子どもたちの体験型イベントの企画・運営に携わり、地域の方々と交流するなかで、自主性、協調性、社会性を育みました。
6	B	健診や講座などの機会を活かして、生活習慣や食などの生きる力の基礎となる要素について、子育て中のママ・パパに丁寧に情報提供を行い、啓発を進めました。
7	A	児童館で、乳幼児と小・中学生、高校生、大学生がふれあい体験活動を実施しました。中学生に命の大切を再確認してもらった「赤ちゃんふれあい事業」については、実施校を増やし、市立中学校27校で実施しました。また、助産師会だけではなく、地域の関係機関や支援者との連携を深めることにより、内容の充実に努めました。
<p>市の様々な所管において、本市の豊かな自然や大学生を活用するなど、子どもたちの「体験」を大切にしたい機会の充実を図る取り組みを行い、子どもたちが豊かな経験を重ねながら、生きる力を育み、郷土を愛する心を醸成しました。</p>		

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

--	--

今後の課題・令和元年度(2019年度)以降の施策の展開

--	--

乳幼児期の教育・保育の質の向上

(PLAN)

めざす姿

乳幼児期において、子どもが生きる力の基礎を育むためのよりよい環境が整えられており、心身の健やかな発達が促され、子どもたちが笑顔で成長していきます。子どもの成長を連続して支えるため、地域と連携しながら、保育園・幼稚園と小学校との円滑な接続が行われています。

平成30年度(2018年度)の主な取り組み

施策8 乳幼児期の教育・保育の質の向上

重点施策3

●教育・保育従事者研修の充実

「発達障害地域支援講習会」(ハッチネットセミナー)として、医師会との連携により「ことばの育ちから—ことばのコミュニケーションから文字学習へ—」「発達障害のある子どもの見立てと支援」「親の問題」「インターネットゲーム障害」をテーマに4回の研修を実施しました。
また、保育従事者を対象に、発達が気になる園児の支援とその支援を関連機関等とつなぐ役割を果たすことができる「保育・特別支援教育コーディネーター」の育成を目的とした研修を新たに実施しました。

施策9 保・幼・小連携の推進

重点施策4

●「保・幼・小連携基本方針」の策定・実施

平成28年度(2017年度)に作成した「保・幼・小連携基本方針」原案をもとに、「八王子市 保・幼・小連携の推進に関するガイドライン」を策定しました。

●「保・幼・小連携の日」の推進

引き続き、園から小学校へ、子どもたちの育ちをつなげるための「保・幼・小連携の日」を、1年生が在籍するすべての市立小学校と、その連携園とで実施しました。(69小学校、97園で実施。園の実施率は71.8%。) また、保・幼・小連携の重要性をテーマとした講演会「幼児期から小学校低学年の学びや発達の理解」を開催し、現場の保育士や先生方の理解を深めました。(平成30年(2018年)11月13日開催、参加者数:151名)

●「就学支援シート」活用の推進

次年度に入学予定の全ての子ども保護者に、リーフレット「就学支援シートを使ってみませんか」を改正し、より分かりやすくすることで周知・啓発を進めました。(令和元年度(2019年度)入学者の利用率は調査中)
また、園や小学校の教職員を対象に、シートの書き方や活用のしかたの研修会を、他市該当園にも拡大し、実施することでよりシートの活用を図りました。(年2回、参加者数:計128名)
また、関係所管と連携し、就学支援シートをマイファイルに保存するものとして位置づけ、より長期的な視点での支援につなげました。

(DO)

(CHECK)

指標

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	29年度 実績値	30年度 実績値	31年度 目標値
8	「保育ガイドライン」の策定・実施	教育・保育の水準を定めた本市独自のガイドラインの策定・実施	-	未実施	未実施	実施
9	「保・幼・小連携基本方針」の策定・実施	保・幼・小連携のための基本方針を策定し、実施	-	原案作成	実施	実施
	「保・幼・小連携の日」実施校数	教職員同士の交流事業を市内全域で実施	6校	69校	69校	69校

自己評価

施策	評価	
8	B	医師会等との連携によって、発達障害に係るセミナーを開催することにより、発達障害をもつ子どもたちについての理解と援助のあり方について、保育士及び関係機関の職員の知見を深めることができました。
9	A	「八王子市 保・幼・小連携の推進に関するガイドライン」を策定し、市内関係施設等に送付しました。ブロック会議では、ガイドラインの説明を行い、関係施設等に周知・啓発を進めました。「就学支援シート」は保・幼・小の現場に定着し、毎年活用が進んでいます。
<p>教育・保育従事者研修の充実により、保育の質の向上に努めました。また、「八王子市 保・幼・小連携の推進に関するガイドライン」を策定し、連携に関する基本的な考え方等を示しました。</p>		

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

--	--

今後の課題・令和元年度(2019年度)以降の施策の展開

--

すくすく★コラム

めざす姿

地域の人々に支えられながら、放課後の地域活動が活発に展開されており、思春期の子どもたちが多様な世代の人々と関わる機会に恵まれています。自分を大切にする気持ちや思いやり、困難に直面しても子ども自身の力で乗り越えられる力が育まれています。青少年の支援に向けたネットワークや環境が整っており、子どもたちがそれぞれの悩みや課題を乗り越えながら自立に向けて成長しています。

平成30年度(2018年度)の主な取り組み

施策10 放課後の健やかな育ちを支える活動場所の充実

重点施策5

- 放課後子ども教室の拡充
- 一体型の学童保育所・放課後子ども教室の充実
- 八王子型児童館事業の充実

小学校の施設を活用し、地域の方々の指導や安全管理員の見守りにより、参加者数及び実施日数とも増加し、多くの子どもたちに放課後の安全で安心な居場所を提供することができました。また、新たに1校で開設するとともに、週5回実施校を拡充(昨年度に比べ3校増)することで、更なる充実を図りました。(合計実施校:65校、うち週5回実施実施校:24校)

「放課後子ども総合プラン」に基づいて、放課後子ども教室及び学童保育所の各担当所管が連携を図り、放課後子ども教室で開催される学習プログラムに学童も参加しやすくなるような環境づくりを行うとともに、校庭での自由遊び以外にも、学習補助・スポーツ教室・伝統文化体験・読書の読み聞かせなど、それぞれの学校の特性を活かした多様な学習プログラムの充実を図りました。また、待機児童が多い学校について、週5回実施に向け、学校や地域に働きかけを行いました。

児童館では、小学生から高校生までの子どもたちの放課後や学校休業日に、子ども実行委員会活動やスポーツ、創作、世代間交流など、心と体の成長をサポートする健全育成プログラムを実施しました。(実施回数:2,158回、参加者数:67,976名)さらに、市内全域で出張児童館などを小学校や市民センターなどで実施しました。(実施回数:150回、参加者数:24,090名)

施策11 青少年健全育成団体の活性化に向けた支援の充実

- 子ども会活動への支援の充実
- 青少年育成指導員の活動支援の充実
- 青少年対策地区委員会への支援の充実

「地域力」による青少年健全育成の更なる推進をめざし、八王子市子供会育成団体連絡協議会が「姫木平の宿泊研修」「文化の日子どものつどい」「新春子ども大会」を実施しました。

青少年育成指導員が夜間の重点的巡回活動を実施しました(回数は集計中)。「青少年の非行・被害防止全国強調月間」「社会を明るくする運動強調月間」である7月には、駅頭及びいちょうホールで啓発イベントを実施しました。また、11月の「子ども・若者育成支援強調月間」及び「児童虐待防止推進月間」では、八王子駅北口やいちょうまつりの会場において「青少年健全育成キャンペーン」を実施しました。



文化の日 子どものつどい



新春子ども大会

施策12 青少年健全育成のための環境整備

- メディアリテラシーの向上に向けた啓発活動の実施

家庭で児童・生徒と保護者が一緒に、携帯電話やスマートフォンなどの情報通信機器の使用について話し合い、価値ある使い方を考え、様々なトラブルや犯罪の被害者にも加害者にもならないように学校と家庭が連携することを目的に、市立小学校1年生には「みんなで考えよう！ケータイ・スマホのある生活」の冊子を配布しました。

市立小学校2年生から市立中学校3年生には東京都が作成した「SNS東京ノート」を配布し、家庭におけるSNS家庭ルールについての話し合いへの活用を促しました。

また、小学校・中学校PTA連合会、教育委員会が連携して、「適切なSNSの使い方に関する緊急提言」を市立小・中学校の保護者向けに発出し、SNSの使用状況の確認及びSNSの危険性について、子どもたちと話し合いの機会をもつことを提案しました。

八王子市青少年健全育成基本方針の平成30年度重点目標を「みんなでつないでいこう思いやりの心」とし、その行動指針の一つを「みんなで話そうスマホのルール、守っていくのは私たち！」と定め、家庭・学校・地域が連携しながら、メディアリテラシーを向上する「セーフティ教室」や「情報モラル講習会」などを多くの団体において実施しました。

「みんなで考えよう！
ケータイ・スマホのある生活」の冊子



- 青少年健全育成協力店と協力した啓発活動の推進

育成指導員がコンビニや書店などの青少年にとって身近な店舗に直接足を運び、更新・新規加入を呼びかけました。(店舗数は集計中)

- 薬物の危険性についての啓発活動の充実

東京都薬物乱用防止推進八王子地区協議会と薬物乱用防止推進サポーターが連携し、健康フェスタやいちよう祭りにおいて啓発活動に取り組みました。(啓発物資配布数：健康フェスタ2,000部、いちよう祭り3,000部)

施策13 若者の社会的自立の促進

- 職場体験・職場見学の充実

様々な職業の体験機会の充実を目標に、子育て応援企業及び親子ふれあい広場・親子つどいの広場での職場体験について、受け入れ意向を市内小・中学校に情報提供し、コーディネートを行いました。(平成30年度(2018年度)掲載施設38か所)

- 子ども若者サポート事業の推進

八王子地区保護司会への委託により、少年の非行など行政だけでは解決が困難な相談に対応するとともに、相談者を適切な支援先へつなぐなどセーフティネットの役割も担いました。また、関係機関との連携を深め、体制を充実しました。

- 若年者就労支援の充実

事業所での職場体験や社会的体験の機会などを創出する「若年無業者就労促進事業」を八王子若者サポートステーションに委託し、その他就労セミナーや相談会などを実施し、就労に結びつけました。(進路決定者数：42名、実習先事業者数は集計中)

指標(★は事業計画に掲載しているもの)

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	29年度 実績値	30年度 実績値	31年度 目標値
10	放課後子ども教室実施校数★	放課後子ども教室の実施校の拡充 (うち、週5回実施する学校数の拡充)	56校 (9校)	64校 (21校)	65校 (24校)	69校 (45校)
	放課後子ども総合プラン 一体型実施校数	一体型の学童保育所・放課後子ども教室 の推進	30校	37校	43校	43校

指標

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	29年度 実績値	30年度 実績値	31年度 目標値
11	子ども会が主催する 主なイベント参加者数	子ども会活動への支援によるイベントの充実	990人	2,151人	3,435人	1,010人
	青少年育成指導者の数	青少年育成指導員への支援の充実	227人	230人	231人	259人
12	青少年健全育成協力店の数	地域における青少年の健全育成と非行防止に協力する店舗の拡大	599店	556店	(集計中)	610店
13	青少年サポートネット はちおうじ相談者数	非行などの悩みを抱える青少年に対する 立ち直り支援の充実	56件	51件	53件	70件
	八王子若者サポート ステーション進路決定者数	八王子若者サポートステーション利用者 への就労支援の充実	23件	58件	42件	50件

自己評価

施策	評価	
10	B	放課後子ども教室について、未実施校を新規開設し、週5日実施校を増やしたことにより、多くの子どもたちに放課後の安全で安心な居場所を提供することができました。また、一体型実施校数が増加したことにより、学童保育所通所児を含めたすべての登録児童が、地域のひととのふれあいや活動プログラムに参加することができました。
11	A	青少年対策地区委員、子ども会、ボーイ・ガールスカウトなど、地域の各活動を支援し、活発な活動につなげました。
12	B	メディアリテラシーについては、地域においても意識が高まり、家庭・学校・地域としての取り組みが増加しました。青少年健全育成協力店は、新規加入店舗数より既存店舗の閉店数が上回ったため減少しました。
13	B	若年無業者就労促進事業では、42人の就労に結びつけた成果を出し、若者の社会的自立を促進しました。子ども若者サポート事業においては、他機関との連携を強化し、事業を進めました。

放課後子ども教室の実施校の拡大や実施日数の拡充をするとともに、運営主体であるPTAや地域の方々の協力のもと、各校の特性を活かした多様な学習プログラムの充実を図り、放課後の健やかな育ちを支えました。
また、若者の社会的自立を促す取組や、青少年育成指導員による夜間の重点的巡回活動の実施等により、青少年の育成環境の整備に努めました。また、放課後子ども教室の拡充による放課後の居場所づくりに取り組みました。

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

--	--

今後の課題・令和元年度(2019年度)以降の施策の展開

--	--

すくすく★コラム



めざす姿

子どもたちが安全・安心に暮らせるよう、地域の大人の協力によって見守りの輪が広がっているとともに、子ども自身に自分の身を守る力が育まれています。多くの大人たちが、自分の地域に関心を持ち、きれいで安心して暮らせるまちづくりを実践しています。

平成30年度(2018年度)の主な取り組み

施策14 地域力を活かした防犯対策の推進

- 町会・自治会が行う防犯活動への支援の充実
防犯活動を行う町会・自治会に対して、パトロール物品の貸与、防犯リーダー養成講習会の開催、防犯カメラの設置経費補助などを行い、地域における防犯力の向上を支援しました。
(実施回数:防犯リーダー養成講習会2回、防犯出前講座5回)
(防犯カメラ設置補助団体数:29団体)
- 事業者などと連携した見守り活動の充実
地域社会の中で、配達や訪問事業を行う民間事業者と、高齢者・障害者・子どもの見守りに関する協定を結ぶことにより、民間事業者の日常業務において高齢者・障害者・子どもの何らかの異変に気付いた場合に市へ連絡を行い、情報提供を受けた市では、関係機関と連携して対応しました。地域のゆるやかな見守りにより、地域社会からの孤立や孤独を防止し、安心して生活できる地域づくりを目指しました。(新規協定締結:5事業者・団体(総協定締結数:36事業者・団体))
- 通学路への防犯カメラの設置
通学路に設置した防犯カメラを管理し、地域ぐるみの見守り活動を補完しました。
- 青少年育成指導員の活動推進
青少年育成指導員が、子どもたちのたまり場や問題箇所の夜間重点的巡回活動などを実施しました。(巡回実施回数は集計中)

施策15 子どもを事故から守るための取り組み

- 交通安全教室・自転車教室の実施
子どもたちが楽しみながら交通ルールを学べるよう、交通公園や保育園などで交通安全教室を195回開催したほか、自転車安全運転免許証発行(小3対象、4,658名)、自転車安全教室(小5対象、3,827名)、スタントマンを活用した自転車安全教育(中学生対象、4,225名、高校生対象、986名)、自転車シュミレーターを利用した交通安全教室(7回、417人)を開催し、交通事故防止を呼びかけました。
また、子どもの交通安全意識の向上を目的に、小学生交通安全絵画コンクール(30校、1,644名参加)を開催しました。
- 子どもの事故予防についての情報提供の充実

施策16 社会的マナーの向上によるきれいなまちづくりの推進

- きれいなまちづくりへの啓発活動の充実
西八王子駅、高尾駅、八王子みなみ野駅、京王堀之内駅周辺において喫煙実態調査を実施するとともに、八王子環境フェスティバルやあったかホールまつりにおいて、喫煙マナーアップキャンペーンを実施しました。
- 青少年対策地区委員会によるクリーン活動の支援
小・中学校や自宅近隣公園等に集合し、小・中学生と地域の大人が一緒に公園清掃や道路のゴミを拾う、青少年対策地区委員会の清掃活動について実施を支援しました。

指標

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	29年度 実績値	30年度 実績値	31年度 目標値
14	地域防犯リーダーの数	町会・自治会などによる防犯活動を推進	720人	998人	1,069人	1,200人
	通学路の防犯カメラ設置数	小学校の通学路への防犯カメラの設置	25台	345台	345台	345台
15	子どもの交通事故の件数	18歳以下の子どもの交通事故防止の推進	198件	129件	135件	152件
16	青少年対策地区委員会 クリーン活動実施延参加地区数	青少年対策地区委員会によるクリーン活動の実施支援	71地区	90地区	86地区	75地区

自己評価

施策	評価	
14	B	町会・自治会や事業者等と連携し、地域の防犯力向上を支援しました。小学校PTA連合会が主体となって実施している緊急避難所「ピーポくんの家(子ども110番の家)」事業を継続支援しました。地域と学校が連携して行う登下校時の見守り活動を補完するため、通学路に設置した防犯カメラを管理し、子どもの防犯対策を進めました。
15	A	年齢に応じた交通安全教育、自転車事故防止のための各種交通安全教室を開催し、子どもの交通安全意識を高めることができました。
16	A	クリーン活動の参加地区が順調に増加しています。マナー向上に係る啓発や、地域におけるクリーン活動の支援を着実に進め、地域ぐるみできれいなまちづくりの推進のための取り組みを行いました。
<p>子どもが安全・安心に暮らせるよう、地域と協働してパトロールや夜間重点的巡回活動などを実践し、安心して暮らせるまちづくりに取り組みました。</p>		

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

--	--

今後の課題・令和元年度(2019年度)以降の施策の展開

--	--

働きながら子育てできる環境の整備

めざす姿

仕事と子育ての調和のとれた生活を希望するすべての家庭が、安心して子どもを預けて働くことができます。働きやすく子育てしやすい職場環境が整っており、父親も母親も協力しながらゆとりを持って子育てができ、家族団らんの時を過ごしています。

平成30年度(2018年度)の主な取り組み

施策17 保育環境の整備・拡充による待機児童解消

重点施策6

- 保育所待機児童の解消

認可保育所3園(新設2園、増改築1園)、小規模保育所2園(新設1園、改修1園)の施設整備を実施し、保育定員を新たに145名分確保しました。

- 学童保育所待機児童の解消
放課後子ども教室との事業連携

施設の新規開設や学校の空き教室の転用などにより5施設の整備を実施し、施設定員を新たに167名分確保しました。

施策18 多様な保育の充実

- 病児・病後児保育の充実

4か所で受入れを行い、年間延べ1,680名の病児・病後児保育を実施しました。

- 一時保育の充実

幼稚園型の一時保育時間の延長及び定員増を図りました。

- ショートステイ・トワイライトステイ事業の充実

民生委員、養育家庭(里親)や家庭的保育事業者(保育ママ)へのPR、ホームページなどでの周知を通し、ショートステイの受託家庭を募集し、充実を図りました。(延べ利用者数:平成29年度811名→平成30年度1,062名)

施策19 父親の育児参加の促進

- 父親への子育て情報発信の充実
父親向け講座の充実

保健福祉センターで実施する妊娠期の講座に、父親の参加を促しました(父親の参加数計:平成29年度524名→平成30年度549名)。また、母子手帳交付時に父親ハンドブックを配布し、妊婦面談時に父親の育児参加の大切さを伝え、子育てメールマガジン「すくすく☆メール」の配信を通し、父親の育児参加や妊娠中のパートナーへの理解を促しました。

- パパ会の支援

親子ふれあい広場や親子つどいの広場において、パパ達が参加しやすい土曜日にパパ向けのイベントを開催しました。『パパと遊ぼう』など、パパ会と連携したイベントも開催し、周知や活躍の場を提供しました。

施策20 子育てと仕事が両立できる雇用環境の推進

- 子育て応援企業への支援の充実

市のホームページや子育てガイドブックにおいて、子育て応援企業におけるワーク・ライフ・バランス支援の取り組みを紹介しました。

- 若者の正規雇用の促進

「はちおうじ就職ナビ」に掲載されている中小企業等に就職した市内在住の若者に奨励金10万円を交付し、市内中小企業の人材確保と若者の就業支援を図りました。(新規認定件数:平成29年度73件→平成30年度77件)

- 女性のための再就職支援

出産・育児・介護などで就業ブランクのある方や、仕事と家庭の両立を目指す方の就職支援を実施しました。
・ハローワーク八王子(マザーズコーナー)との共催で、託児付きのパソコン講習会(全3日間、参加者数10名、託児利用6名)、及び、託児付きのミニ面接会(全3回、参加企業3社、参加者数23名、託児利用3名)を実施しました。
・ハローワーク八王子(マザーズコーナー)及び日野市との共催で、託児付きの就職面接会を実施しました。(参加企業5社、参加者数22名、託児利用4名)

指標(★は事業計画に掲載しているもの)

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	29年度 実績値	30年度 実績値	31年度 目標値
17	保育所待機児童の数★	保育所への入所待機児童数の解消	219人	56人	26人	0人
	学童保育所待機児童の数★	学童保育所への入所待機児童数解消	193人	172人	215人	0人
18	病児・病後児保育室設置数	病児・病後児保育室の設置の充実	3カ所	4カ所	4カ所	5カ所
20	子育て応援企業の登録数	子育て応援企業の登録事業所数の拡充	162 事業所	192 事業所	188 事業所	200 事業所
	くるみんマークを取得した 市内の事業主の数	市内における、くるみんマークを取得した 企業数の増加	2企業	1企業	1企業	5企業
	ナビ掲載企業に就職した若者への 奨励金交付	奨励金の交付による正規雇用の促進	-	実施	実施	実施

※「保育所待機児童の数」及び「学童保育所待機児童の数」の「30年度実績値」については、平成31年(2019年)4月1日現在値

自己評価

施策	評価	
17	B	保育施設の新設や増改築により、保育定員を増やし、保育所待機児童数が前年より30名減少しました。学童保育所については、新設や施設整備の実施により定員を増やしましたが、申込者が増加傾向にあるため学童保育所待機児童数が前年より43名増加しました。今後も、定員を超えることが見込まれる学区については、施設整備による定員数の確保に努めるほか、放課後子ども教室の拡充により、児童が放課後に安心して過ごせる居場所づくりに努めていく必要があります。
18	B	保育時間の延長と定員枠の拡大により、一時保育の充実を図りました。また、病児保育室については、平成30年3月の1施設増加により、年間実施数を平成29年度1,482名→平成30年度1,680名に拡充しました。
19	B	妊娠期の講座や妊婦面談の機会を活用し、父親向けの情報発信を行いました。
20	B	「はちおうじ就職ナビ」に掲載されている中小企業に就職した市内在住の若者に奨励金を交付する事業の実施や、子育て応援企業の取り組み紹介などにより、仕事と子育てが両立できる雇用環境の推進に寄与しました。

保育所待機児童については、施設整備等により減少につなげました。また、学童保育所については、施設整備等により定員を増やしました。

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

--	--

今後の課題・令和元年度(2019年度)以降の施策の展開

--	--

めざす姿

妊娠から出産、子育てまでの切れ目のない支援や情報提供が行われており、心身ともに安定した妊娠・出産によって健やかな赤ちゃんが誕生し、家族や地域の愛情に包まれながら成長しています。

子どもから大人へと成長していく途中で、こころや身体、人との関わり方が変化していく時期に、地域の大人たちがあたたかく見守っています。

平成30年度(2018年度)の主な取り組み

施策21 妊娠期からの切れ目のない相談・支援体制の充実

重点施策7

● 八王子版ネウボラの実施

八王子版ネウボラとして、妊婦面談の実施(面談率 80.0%)や「はちおうじっ子子育てほっとライン」、出産直後の産婦の心身のケアを助産師が行う産後ケア事業(訪問型)を行い、妊娠期からの切れ目のない相談・支援体制の充実につなげました。

● 切れ目のない情報提供の実施

「こんにちは赤ちゃん～親子の健康ガイド～」を改正し配布しました。妊娠期及び子育て期の保護者に向け、切れ目なく妊娠子育て期の支援情報の提供を行いました。また、子育てガイドブックや子育て情報モバイルサイトにおいて、妊娠期及び子育て期の保護者に向け、切れ目なく妊娠子育て期の支援情報の提供を行いました。

● 産前・産後サポート事業の実施

家庭にヘルパーを派遣して、家事のお手伝いをするサービス「ハローベビーサポート」事業を実施しました。ネウボラ事業と連携し、事業周知に努めました。(延べ利用者数:平成29年度180名(実働時間717時間)→平成30年度217名(実働時間821時間))

● 産後ケア事業(訪問型)

産後も安心して子育てができる支援体制の確保を目的とする産後ケア事業(訪問型)を、平成30年(2018年)8月から開始し、退院直後の母子に対して心身のケアや育児のサポート等を行いました。(申請者数168人、予約件数262人)

● 母親・父親学級の充実

父親・母親学級について、土曜日開催を継続しました。(回数:年間45回、うち、土曜日の実施6回)

施策22 親と子の健康づくりの推進

● 赤ちゃん訪問事業の実施

「こんにちは赤ちゃん事業」として全戸訪問を目指しました。(赤ちゃん訪問率91.7%)訪問希望のない方にも地域情報やサービスを案内し、切れ目のない支援の充実を図りました。

● 健診時などにおける健康教育の実施

乳幼児健診事業を通して、親と子の生活習慣病予防教育を実施しました。

● 親子の健康についての情報提供の充実

健診時などにおいて、「親と子の健康教育」を実施しました。(年間10,599名)

施策23 いのちの大切さを若い世代に伝える機会の充実

● 児童・生徒への妊娠・出産・子育てに関する知識の普及や情報提供の充実

保健福祉センターでは、関係機関と連携して各種イベントでの啓発や赤ちゃんふれあい事業に協力しました。(沐浴人形・妊婦体験ジャケットの貸出回数 年間40回)

● 赤ちゃんふれあい事業の推進(再掲)

児童館では、乳幼児と思春期の子どもたちがふれあう体験事業(参加者数:69名)や、中学生や高校生、大学生が地域の親子とふれあう職場体験やボランティアの受入を実施しました。また、赤ちゃんふれあい事業を市立中学校27校で実施し、中学生が妊娠・出産に関する正しい知識を習得するとともに、命の大切さや家族の絆などを改めて認識する機会を提供しました。

指標

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	29年度 実績値	30年度 実績値	31年度 目標値
21	産前・産後サポート事業の実施	産前・産後期に、訪問相談の専門員や家事・育児ヘルパーを派遣する事業の実施	-	実施 (延180人)	実施 (延217人)	実施
	子育てメールマガジン「すくすく☆メール」登録者割合	妊婦や3歳未満の乳幼児を持つ保護者のメールマガジン登録の促進	-	16.6%	15.9%	50%
	母親・父親学級の開催数(平日/土曜:年間)	母親・父親学級の土曜日開催の充実	18/4回	15/6回	45/9回	15/6回
22	夜10時までに就寝する3歳児の割合	3歳児の生活習慣や健康状況の向上を推進(健診の際の保護者からの聞き取り調査)	71.5%	73.8%	73.5%	75%
	むし歯のない3歳児の割合		85.3%	88.8%	90.3%	93%
	毎日朝食を食べる3歳児の割合		95.8%	96.6%	95.9%	100%
23	小・中学生に対する出前講座の実施	関係機関が連携し、児童・生徒に向けた妊娠・出産・子育てについての啓発講座を実施	実施	拡大	実施	拡大
	赤ちゃん・ふれあい事業の実施(再掲)	思春期の子どもたちが、赤ちゃんとふれあう取組を推進	実施	拡大 (24校)	拡大 (27校)	拡大

自己評価

施策	評価	
21	A	八王子版ネウボラとして、妊婦面談の向上に努め、80.0%を維持しています。妊娠、出産、育児に関すること、どこに相談したらよいか分からない時に電話やメールで相談できる「はちおうじっ子 子育てほっとライン」を設置し、妊娠期からの切れ目のない相談・支援体制の充実につなげました。また、出産直後の産婦の心身のケアを助産師が行う産後ケア事業(訪問型)を開始しました。(平成30年(2018年)8月開始述べ262件(申し込み者数168名))
22	B	赤ちゃん訪問、むし歯予防教室等の健康教育、乳幼児健診など、様々な機会を活用した親子の健康支援に積極的に取り組みました。
23	B	各保健福祉センターにおける各種イベントや赤ちゃんふれあい事業を通して、いのちの大切さについて若い世代に伝える機会を設けました。

平成30年度(2018年度)に助産師による産後ケア事業を開始し、妊娠・子育て期の切れ目ない支援体制を充実させ、より安心して相談できる環境を整備しました。

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

--	--

今後の課題・平成31年度(2019年度)以降の施策の展開

--	--

子育て家庭への支援の充実

めざす姿

すべての子育て家庭が、それぞれ必要に応じた支援を受けながら、地域で助け合い、充実した生活を送っています。子育て家庭の生活基盤の安定が図られ、家庭内に愛情が満ち、子どもの健やかな成長へとつながっています。

平成30年度(2018年度)の主な取り組み

施策24 子育て家庭への経済的支援の充実

- 各種手当・医療費の助成

児童手当・児童扶養手当・児童育成手当の支給、乳幼児・義務教育就学児・ひとり親家庭などへの医療費助成事業の実施により、子育て家庭への経済的支援を行いました。

- 多子軽減の充実

保育料の算定において年収約360万円未満相当世帯に該当する場合、多子軽減に係る生計同一の兄弟の年齢制限を撤廃し、第2子は半額、第3子以降は無料とする支援を継続して実施しました。

施策25 地域における子育て支援の充実

- 一時保育の充実(再掲)

幼稚園型の一時的保育時間の延長及び定員枠増を図りました。

- ショートステイ・ワイライトステイ事業の充実(再掲)

民生委員、養育家庭(里親)や家庭的保育事業者(保育ママ)へのPR、ホームページなどでの周知を通し、ショートステイの受託家庭を募集し、充実を図りました。(延べ利用者数:1,062名)

- ファミリー・サポート・センター事業の充実

平成28年度(2017年度)から対象年齢を小学校4年生まで→6年生までに拡大し、土曜日や平日19時まで開所時間を拡大し、継続して実施しました。また全体交流会と各地区(6か所)で地区交流会を実施し、会員同士の交流促進を図りました。

施策26 安心して子育てができる環境の整備

- 「赤ちゃん・ふらっと」設置促進

「赤ちゃん・ふらっと」設置のための補助やPRの促進を行い、新たに7か所の「赤ちゃん・ふらっと」が設置されました。(1件が店舗都合により「赤ちゃん・ふらっと」を廃止したため、昨年度比6か所増加)「ベビーテント」(屋外イベント時などに授乳・おむつ替えスペースを提供する)について、フェイスブックやホームページなどを通じて周知し、イベント主催者の利用を促しました。(平成30年度貸出件数21件。前年度比5件増加)

- 「思いやり駐車スペース」設置促進

歩行に制限を受ける内部障害のある方、妊娠中の方、乳児を連れている方、高齢の方、ケガをされている方などを対象に、市内の各施設の駐車場をできる限り優先的に利用していただく取り組み。市民の方々がより安全で安心して施設を利用できるよう、市民の「思いやり」に根ざした駐車スペースの設置の周知、普及に努めましたが、設置実績はありませんでした。

- 親子参加型イベントの充実

保育園の支援担当による親子イベントとして、「ママのためのリラックスフェスタ」、「青空Smile親子Fes♪」、「輪Fes♪」等を行い、多くの親子が参加しました。それぞれテーマを決め、助産師会、子育て応援企業、NPO法人、子育て支援サークル、大学などと連携し、実施しました。また、八王子ふれあいこどもまつりにおいて、親子参加型のワークショップを行う子育て応援企業などの出展を支援しました。

<p>●ブックスタート事業の推進 図書館でのおはなし会の実施</p>	<p>ブックスタート事業では、赤ちゃんと保護者が、絵本を開く楽しい体験で、絵本に親しみ心ふれあうきっかけづくりをするため、3～4か月児健診・3歳児健診時に、読み聞かせやわらべうたを実施しました。3～4か月児健診時には、本やDVDなどの入ったブックスタートパックをプレゼントしました。(開催回数、参加者数:「3～4か月児健診」計72回、3,296名、「3歳児健診」計72回、3,837名) 図書館でのおはなし会では、児童・幼児を対象に、読み聞かせ、紙芝居、ストーリーテリング(素話し)、遊戯(手遊び・歌・ゲーム)などを行い、読書に親しむことで、読書習慣定着に向けて取り組みました。(全開催回数:115回、参加者数:1,976名)</p>
--	---

指標(★は事業計画に掲載しているもの)

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	29年度 実績値	30年度 実績値	31年度 目標値
25	養育協力家庭の数	宿泊型保育を行う養育協力家庭の拡充	14家庭	5家庭	4家庭	16家庭
	ファミリー・サポート・センターの 年間活動件数★	ファミリー・サポート・センターの利用促進	6,592件	4,649件	4,277件	8,206件
	「マイ保育園」制度の実施	保育所における地域の在宅子育て家庭への支援の充実	-	未実施	未実施	実施
26	「赤ちゃん・ふらっと」設置数	授乳・調乳・おむつ替えなどができる「赤ちゃん・ふらっと」の設置促進	94か所	123か所	129か所	120か所
	「思いやり駐車スペース」設置数	妊娠中や赤ちゃん連れの方が利用できる「思いやり駐車スペース」の設置促進	56か所	68か所	68か所	86か所

自己評価

施策	評価	
24	B	各種手当・医療費の助成を着実に実施しました。
25	C	子育て家庭に必要な支援を提供できるよう引き続き取り組みました。幼稚園型一時保育の内容を充実しました。
26	B	「思いやり駐車スペース」については設置実績がありませんでしたが、「赤ちゃん・ふらっと」については、市民ニーズの高い公園を含む公共施設・民間施設で新たな設置が進み、目標数以上を設置しました。ベビートントも認知が進み、貸出件数が増えました。

手当の支給や医療費の助成などによる経済的支援を行うことで、子育てに係る保護者の負担軽減を図り、子育て世帯の生活基盤を支えました。また、親子を対象としたイベントの充実や子育てガイドマップの配布により、親子が外出しやすい環境づくりに努めました。

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

--	--

今後の課題・令和元年度(2019年度)以降の施策の展開

--

子育てに関する相談・居場所の充実

PLAN

めざす姿

子どもの成長に寄り添い喜びや悩みを分かちあえる人や、子どもの発達や家庭の状況にふさわしい支援をコーディネートしてくれる身近な支援者の存在が、親にとって大きなこころの支えとなり、安心して楽しい子育てへとつながっています。

平成30年度(2018年度)の主な取り組み

施策27 子育てひろばの充実

重点施策8

● 子育てひろばの設置促進

子ども家庭支援センターの親子ふれあい広場6か所、親子つどいの広場5か所、児童館10か所、公立保育園10園、私立保育園17園で子育てひろばを実施しました。平成30年度(2018年度)は新たな設置はありませんでしたが、引き続き設置促進に取り組んでいきます。

● 「子育てひろばガイドライン」の策定・実施

「子育てひろばガイドライン」の策定に向けた検討を行いました。

● 出張ひろばの実施

児童館において、地域の子育てサークルへの支援や市民センターなどでの出張ひろば(体操、工作、手遊びなど)を行いました。(実施回数:87回)

施策28 利用者支援の充実

重点施策9

● 保育相談の充実(保活の支援)

保育園への入所を希望する保護者を対象に、市内3か所で行政窓口における利用者支援(相談対応・情報提供)を実施するとともに、平成30年度(2018年度)は、入所相談会を市民センターなど5か所、保健福祉センター3か所で開催し、利用者支援の充実を図りました。

● 「子育てひろばコンシェルジュ(仮)の設置」

新たに2か所の子育てひろば(親子つどいの広場・西八王子及び大和田)に利用者支援員を配置し、配置施設を9か所としました。また、地域の子育て資源の情報提供や相談・支援を行っていくために、子育て支援員研修(基本型)の受講を呼びかけました。

● 利用者支援研修の実施

児童館では、身近な相談場所として子ども自身や保護者からの相談に対応するため、職員の専門性の向上を図る研修を行いました。また、親子つどいの広場、親子ふれあい広場のひろば事業受託者に対しては、利用者支援事業につなげるため、子育て支援員研修(基本型)の受講を呼びかけました。

DO(実行)

指標(★は事業計画に掲載しているもの)

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	29年度 実績値	30年度 実績値	31年度 目標値
27	子育てひろばの設置数★	身近な地域への子育てひろばの充実	38か所	48か所	48か所	55か所
	「子育てひろばガイドライン」の策定・実施	本市独自の「子育てひろばガイドライン」の策定と実施	-	未実施	未実施	実施
28	保育相談の実施か所数	保育相談(保活)に対応する行政窓口の充実	-	3か所	3か所	3か所
	「子育てひろばコンシェルジュ(仮)」の設置か所数★	子育てひろばにおける利用者支援の充実	5か所	7か所	9か所	11か所

CHECK(評価)

自己評価

施策	評価	
27	B	全ての公立保育園、児童館、子ども家庭支援センターで子育てひろばを設置しており、子育てひろばの充実に努めました。今後も、民間保育園等が改築する際など、働きかけを行なっていきます。 児童館の子育てひろばでは、「アラフォーママあつまれ」や「引っ越しママあつまれ」など、参加対象を限定したひろば活動を実施しました。対象を限定することで、参加者同士の交流が深まり、子育ての負担感、不安感の解消に繋がりました。また、児童館の出張ひろばの実施による利用者支援の内容充実によって、子育てひろば機能の充実に努めました。
28	B	保育園への入所を希望する保護者を対象に、市内3か所で行政窓口における利用者支援(相談対応・情報提供)を実施するとともに、平成30年度(2018年度)は、入所相談会を市民センターなど5か所、保健福祉センター3か所で開催し、利用者支援の充実に努めました。 また、新たに2か所の子育てひろば(親子つどいの広場・西八王子及び大和田)に利用者支援員を配置しました。
子育てひろばの拡充や利用者支援事業(基本型・特定型)の実施体制の整備により、子育てに関する相談・居場所の充実に努めました。		

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

--	--

今後の課題・令和元年度(2019年度)以降の施策の展開

--

すくすく★コラム

めざす姿

子育てについての学びの場や仲間づくりの機会が充実しており、子育ての知恵や経験が世代間で継承されています。親としての成長を通じて、喜びや楽しさ、生きがいを感じながら子育てができています。

平成30年度(2018年度)の主な取り組み

施策29 親の学びを支える支援の充実

- 子育てひろばでの学びの機会の充実
- 母親・父親教室の充実

子育てひろばの利用者アンケートなどにより、保護者のみなさんのニーズを把握し、「のびのび子育て講座」を充実しました。また、子育てひろばにおいて、親の学びを支援するための育児書の貸出を実施しました。生涯学習センター(クリエイトホール)において、子育て応援ひろば講座・家庭教育講座を実施し、発達障害、しつけ、子離れなどをテーマに専門家や学識経験者を招いた講座を提供しました。(参加者数:延べ243名)

- 子育てサークルの育成支援

各地域子ども家庭支援センターに登録している子育てサークルに対して、情報提供や育成の支援を行いました。

施策30 家庭における食育の推進

- 食育講座の実施
- 子育て支援施設における食育活動の充実

公立保育園の子育てひろばなどで、離乳食、幼児食などについて学ぶ食育講座を実施しました。また、公立保育園では、園児の保護者を対象とした給食試食会や親子おやつクッキングなどを開催しました。地域の子育て家庭に向けては、親子クッキングを開催しました。各保健福祉センターや子育てひろばでは、離乳食、幼児食などについて学ぶ食育講座を実施しました。

- 団体や企業による食育活動への支援の充実

多くの団体や企業が参加する、「2018健康フェスタ・食育フェスタ」を開催し、市民のみなさんにも食育活動について知ってもらう機会となりました。(参加者数:10,579名)



開会式の様子



食育ミニ講座の様子

参加団体

NPO 法人八王子市体育協会 / 特定非営利活動法人八王子市レクリエーション協会 / 八王子市町会自治会連合会 / 八王子市シニアクラブ連合会 / JA 八王子女性部 (八王子市農業協同組合) / 八王子市立中学校長会 / 八王子市公立小学校長会 / 八王子市私立幼稚園協会 / 一般社団法人八王子市私立保育園協会 / 八王子市子供育成団体連絡協議会 / ガールスカウト八王子連合会 / ボーイスカウト八王子協議会 / 八王子市赤十字奉仕団 / 国際ソロプチミスト八王子 / 東京八王子プロバスケットボール / はちおうじ健康づくり推進協議会市民委員 / 一般社団法人八王子市医師会 / 公益社団法人東京都八南産科医師会八王子支部 / 一般社団法人八王子薬剤師会 / 八南助産師会 / 八王子管理栄養士の会ダイエタリー・フレンズ / 八王子地域活動栄養士会 / 東京都薬物乱用防止推進八王子地区協議会 / 八王子市民生委員・児童委員協議会 / 公益社団法人東京都柔道整復師会南多摩支部 / 八王子病院栄養研究会 / 多摩友の会八王子方面 / ふるさとの食を拓く会 / 無印給食協議会・福祉給食研究会 / 八王子スポーツ吹奏協会 / NPO 法人プレイサークル運営委員会 / 東京工業高等専門学校 / 八王子市健康づくりサポーター / 八王子市

協賛・協力企業



参加団体
協賛・協力企業一覧

施策31 家庭教育への支援の充実

- 家庭教育啓発リーフレットの普及促進
 家庭内における生活習慣や学習習慣を身につける「家庭教育」を啓発するため、リーフレットの見直しを行い、市民が家庭教育に親近感が持てるよう、よりわかりやすい内容としました。また、市内小・中学校の児童・生徒を持つ家庭、さらに庁内における家庭教育支援の連携を図るため、関連所管及び行政委員などにもリーフレットを配布しました。
- 家庭内のルールづくりや年中行事の啓発
 子育てひろばで、季節感のある講座やイベントを実施しました。メールマガジン「月刊・すくすく☆メール」では、親子で楽しむ季節の年中行事等についての情報を毎月配信し、啓発を進めました。(1回の配信数:約4,600件)
- 母親・父親教室の充実
 子育てや他の保護者、教員との接し方などに関する参加者の心理的負担の軽減を目的に、家庭教育支援チーム(文部科学省認定)との協働により、参加者同士がコミュニケーションを図る「パパママ支援ワークショップ 星とおひさまフィカキャラバン」を小学校の保護者会などで開催し、家庭の教育力の向上を図りました。(参加者数:6回 計94名)

指標

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	29年度 実績値	30年度 実績値	31年度 目標値
29	「のびのび子育て講座」実施数	親子ふれあい広場で実施している「のびのび子育て講座」の充実	1,041回	978回	1,050回	1,077回
	子育てサークルの数	子育てサークルの活動への支援の充実	38団体	30団体	31団体	42団体
30	親子クッキングの参加者数	親子で楽しみながらの調理実習を通して、地域の子育て家庭の食育を推進	50組	58組	70組	80組

自己評価

施策	評価	
29	B	子育てひろばにおいて、保護者のニーズに合った講座の開催や育児書の貸出を通して、親の学びの機会や内容の充実につなげました。
30	B	食育に関する講座やイベントの開催、情報提供、体験の場の提供を通して、家庭における食育を支援しました。親子クッキングの参加者は、段階的に増やし平成30年度は70組でした。食育に関する講座やイベントの開催、情報提供、体験の場の提供を通して、家庭における食育を支援しました。
31	B	子育てひろばでの、年中行事など季節感のある講座やイベントの実施等を通じて、周知・啓発を進めました。啓発リーフレットの見直しを行い、より市民にわかりやすい内容としたうえで、家庭教育の周知・啓発を進めました。

様々な機関での講座・イベントの実施や、啓発リーフレットなどでの情報発信により、子育ての様々な場面での保護者への情報提供を実施し、子育て力向上への支援に取り組みました。

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

--	--

今後の課題・令和元年度(2019年度)以降の施策の展開

--

めざす姿

市民・企業・大学がつながりながら、地域全体が子どもの育成や子育て支援に参加し、その活動の輪が様々な場所に広がっています。市全体で、次代を担う子どもたちの健やかな育ちを応援し、子育ての喜びや楽しさが実感できるまちづくりが推進されています。

平成30年度の主な取り組み

施策32 子育て支援に関わる市民活動団体への支援の充実

- 子育て支援に関わる市民活動団体への支援の充実

市民企画事業補助金制度に応募があった市民活動団体が企画した事業について、外部委員による評価等を経て12事業を採択しました。(そのうち、子育て支援に関連する事業は下表のとおり)

団体名	事業名	事業概要
みんなのハロウィン実行委員会	みんなのハロウィン (街を知り商店と繋がれる周遊型イベント)	八王子駅周辺において、子どもを対象としたイベントを地元商店が主体となって開催することで、商店街の活性化を図るとともに、転入してきた子育て中のファミリー層に地域情報を提供する。
みはらしプレーパークの会	一緒に遊ぼう！一緒に創ろう！みはらしプレーパーク@八王子	宇津貫緑地を拠点に、未就学児から小学生の子どもを対象に自然の中で自由に遊ぶことができる場を提供するとともに、運営する担い手(親)の育成を図る。

また、子育て支援団体のネットワークづくりやイベント参加を支援しました。昨年度に引き続きフードバンク八王子への委託実施により「地域子ども支援事業」に取り組み、子ども食堂や無料塾等、地域で子どもの居場所づくりを行う団体の支援やネットワークづくりを行いました。新たに子ども食堂2団体、無料塾1団体が登録しました。

施策33 企業・大学の参加による地域の子育て支援の充実

- 子育て応援企業の活動支援

八王子ふれあい子どもまつりや公立保育園子ども支援担当のイベント等で、子育て応援企業ブースを設け、企業から地域の親子に直接子育て支援のメッセージが伝わる場を提供するとともに、子育て応援企業や子育て支援者のネットワークづくりを支援しました。

また、市のホームページや子育てガイドブックにおいて、各企業の子育て支援の取り組みを紹介したり、企業が主催する子育てイベントのPR協力を行うなど、子育て応援企業による子育て支援の取り組み推進をサポートしました。

- 夏休み子どもいちょう塾の充実

大学コンソーシアム八王子に加盟する25の大学・短大・高専の専門領域を活かしたプログラムとして、八王子市内の小学生(4~6年生)を対象に夏休みの特別講座を2日間にわたり開催しました。また、本年度は八王子市教育委員会と共催し、八王子市生涯学習センター(クリエイトホール)を会場に加え、講座数ならびに内容の充実を図ることができました。

また、申込者数は平成29年度(2018年度)より減少したものの、665名からの申し込みがあり、平成29年度(2018年度)より4講座多い27講座を開講したほか、八王子(東急)スクエアビル2階のオープンスペースにてワークショップ(当日参加型)を開催し、計478名(平成29年度410名)が参加しました。参加者アンケートによると「とてもおもしろかった、おもしろかった」が97.8%、学びへの興味(もっと学びたいか)は「強く思う、思う」が92.1%、また参加したい児童は78.9%と、子どもたちにとって魅力的な講座を開講することができました。

施策34 地域をつなげる子育て拠点づくりの推進

- 子育て支援施設を中心とした地域連携の推進

子育てひろば事業において、地域の団体やボランティアと協力して講座を開催しました。また、児童館では、児童館地域連絡会を開催し、地域の子ども関係機関・団体との連携を強化しました。(開催回数:13回、参加人数:166名)

指標

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	29年度 実績値	30年度 実績値	31年度 目標値
33	子育て応援企業の登録数(再掲)	子育て応援企業の登録事業所数の拡充	162 事業所	192 事業所	188事 業所	200 事業所

自己評価

施策	評価	
32	A	地域子ども支援事業(フードバンク八王子への委託事業)やプレーパーク事業等への補助により、団体等の活動が、地域の親子の子育て支援につながるよう支援を行いました。
33	B	夏休み子どもいちょう塾の実施など、本市の特色を活かした多様な子育て支援者による取り組みを支援し、連携も進みました。
34	B	地域全体で子育てを支えていくためのネットワークづくりについて、継続して取り組みました。また、児童館では、多くの市民の参加や協力を得て、市内各所で児童健全育成プログラムを実施することで、地域の子育て支援拠点の役割を果たしています。

地域全体で子どもと子育てを支えていくために、市民・企業・大学等との協働を推進しました。児童館や保育園、子育てひろばにおいては、各施設を中心とした地域における連携が進んでいます。

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

--	--

今後の課題・令和元年度(2019年度)以降の施策の展開

--	--

子育てプロモーションの推進

PLAN (計画)

めざす姿

「子育てプロモーション」活動を通じて、子どもや子育て支援に関する地域の情報や取り組みがつながり、親子と地域の様々な人との出会い・交流によって、地域活動が活性化しています。まちへの愛着が生まれ、このまちで子育てしたい、住み続けたいという気運が醸成されています。

子どもの成長が、私たちの未来に関わる大切なこととして、すべての人が関心を持ち、子育てを応援することが地域にとっても豊かな営みとなっています。

DO (実行)

平成30年度(2018年度)の主な取り組み

施策35 地域をつなげる子育て情報の発信

重点施策10

- 子育て情報モバイルサイトの運営・子育てメールマガジンの配信
- SNSによる情報発信の充実
- オープンデータを活用した子育て情報の充実
- 子育てガイドブックの充実など

子育て情報モバイルサイト「はち☆ベビ」及びメールマガジン「すくすく☆メール」において、月齢に合った子育て支援情報や旬な子育てイベント情報を「プッシュ型サービス」で配信しました。

フェイスブック及びツイッター「すくすく＊はちおうじ」において、ビジュアル性・メッセージ性のある情報発信をタイムリーに行いました。(平成30年度(2018年度)末現在、フェイスブック:1,280「いいね!」、ツイッター:240「フォロワー」)

赤ちゃん・ふらっとのデータをオープンデータカタログとして市のホームページに掲載し、授乳室等を紹介するアプリで活用されました。

子育てガイドブックの巻頭特集では、中学生が妊婦や赤ちゃんとの交流を通して命の温かさや大切さを感じられる「赤ちゃんふれあい事業」や、誕生から自立に向けた就労期までの成長発達を切れ目なくサポートするための「はちおうじっ子マイファイル」の紹介をしました。

DO (実行)

施策36 子育てを楽しむ気運の醸成

- 市民や企業、大学など、多様な立場からの子ども・子育て支援への参画・協働の推進
- 「ぼくらの八王子」普及・啓発

八王子ふれあいこどもまつりや子育てひろば等でのイベント、赤ちゃんふれあい事業など、さまざまな事業において、市民団体、企業・法人、大学、市民など、多様な子育て支援者が協働して、子育て支援を進めました。また、子育て応援カフェなど、子育てを支援する企業や団体の連携や交流を促進する機会を設けました。

イベント(たにぞうファミリーコンサート、いちようまつりなど)や、園・学校行事などの機会に、「ぼくらの八王子」を歌い踊る場を設け、「ぼくらの八王子」を子どもたちに楽しみながら親んでもらう機会をつくりました。また、引き続き「ぼくらの八王子」ミュージックビデオを公開し、多くの方に視聴してもらい、普及・啓発につなげました。八王子駅南口総合事務所と保育幼稚園課で、CDの販売をしています。

CHECK (評価)

指標

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	29年度 実績値	30年度 実績値	31年度 目標値
35	子育て情報モバイルサイト「はち☆ベビ」登録者数の割合	妊婦や3歳未満の乳幼児を持つ保護者の子育て情報モバイルサイトへの登録の促進	-	46.8%	41.2%	60%
	子育てメールマガジン「すくすく☆メール」登録者数の割合(再掲)	妊婦や3歳未満の乳幼児を持つ保護者のメールマガジン登録の促進	-	16.6%	15.9%	50%
36	子ども・子育てフォーラム開催	地域社会全体で子育て支援に取り組む気運を醸成するきっかけとなるフォーラムを開催	-	実施	未実施	実施

自己評価

施策	評価	
35	C	子育て情報モバイルサイトの周知については、妊娠届の提出時や予防接種の通知にチラシを同封するなどの取り組みを行っていますが、登録者数の割合が少ない状況です。
36	B	多様な団体同士の協働や連携の取組や、「ぼくらの八王子」の普及・啓発などを通して、子どもたちや子育て支援に関わる地域のみなさんがつながり、地域から子育てを楽しむ気運の醸成につなげました。
さまざまな事業において、市民団体、企業・法人、大学、市民など、多様な子育て支援者が協働して子育て支援を進め、地域における子育て支援を取組を推進しました。		

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

--	--

A
C
T
I
O
N
(
改
善
)

今後の課題・令和元年度(2019年度)以降の施策の展開

--

すくすく★コラム

子育て支援に関わる地域人材の育成

めざす姿

地域の支援者が、子どもの成長を喜びながら子どもや子育てをサポートし、親同士が、お互い支えあい学びあえる環境が整っています。地域の中で、子育てを通じて人と人とのつながりや支援の輪が広がり、親自身が次代の子育て支援の担い手となる好環境が生まれています。

平成30年度(2018年度)の主な取り組み

施策37 子育てボランティアへの支援の充実

●子育てボランティアへの参加促進

Beeネットボランティアについて、各地域子ども家庭支援センターでの交流会や全体交流会、出前講座を通じて、ボランティアへの参加を進めました。また、小・中学生の職場体験や大学生の課題授業を受け入れ、ボランティア意識の醸成に努めました。

●子育てボランティアへの育成・活動支援

児童館で、大学生や高齢者など地域の皆さんがボランティアとして児童館事業に携わる機会を提供し活動しました。(児童館の各種事業に4,340名のボランティアが参加)

施策38 子育て支援に関わる人材育成の充実

●子育て支援に関わる研修やネットワークの充実

市内の子ども支援団体に子ども家庭支援センターの役割や児童虐待防止について研修を行いました。また、子ども支援団体ネットワーク会議を開催し、子育て支援者のネットワークづくりにつなげました。

●ファミリー・サポート・センターの講習会の充実

提供会員を対象とした講習会や研修を行い、研修内容を充実しました。(講習会:年6日・参加者数:延べ60名、研修:年3回・参加者数:34名)

指標

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	29年度 実績値	30年度 実績値	31年度 目標値
37	子育て応援団Beeネットの登録者数	子育てボランティアの周知による登録者増加と活動支援の充実	441人	530人	579人	516人
	児童館ボランティアの登録者数		987人	812人	733人	1,276人
38	ファミリー・サポート・センター提供会員数	保育などの育児支援を行う提供会員の拡充	691人	709人	693人	751人

自己評価

施策	評価	
37	B	交流会などを通じて、Beeネットボランティアを周知し、登録促進しました。また、児童館利用者が大人になり、児童館でボランティア活動を行うなど、ボランティア育成のサイクルはできていますが、児童館ボランティアに団体登録しているサークルの加入者が減少しています。
38	B	子ども支援団体ネットワーク会議を開催し、子育て支援者のネットワークづくりにつなげました。また、講習会を通じて、ファミリー・サポート・センターの提供会員の拡大に努めました。(新規登録の提供会員数:39名)

大学生、高齢者等に対し、子育てに関わるボランティアの登録を促進することで、子育てを通じて地域の人と人の支援の輪が広がり、支援を受けた世代も担い手として参加することで、多世代が子育てを支えあう仕組みづくりにつなげました。

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

CHECK
(評価)

児童福祉専門分科会による評価

--	--

ACTION
(改善)

今後の課題・令和元年度(2019年度)以降の施策の展開

--

すくすく★コラム

めざす姿

地域の関係機関の連携が進み、親の子育ての不安や負担感が早期に軽減され、児童虐待を予防する環境が整っています。やむを得ず家族と離れて暮らす子どもがあたたかな環境で育ち、次代を築いていくための支援体制がつけられています。

平成30年度(2018年度)の主な取り組み

施策39 児童虐待の予防や早期発見・早期対応の充実

重点施策11

- 児童虐待の予防や早期発見に向けた体制の充実
妊婦健康診査、こんにちは赤ちゃん事業、乳幼児健診事業など、親子と面話し話を伺う機会を継続的に実施しました。さらに、「八王子版ネウボラ」の相談体制づくりを進め、八王子市妊娠・出産・子育て相談案内窓口「はちおうじっ子 子育てほっとライン」を開始し、児童虐待の予防・早期発見に努めました。
- 産前・産後サポート事業の実施(再掲)
家庭にヘルパーを派遣して、家事のお手伝いをするサービス「ハローベビーサポート」事業を実施しました。ネウボラ事業と連携し、事業周知に努めました。(延べ利用者数:217名、実働時間:821時間)
- 養育支援訪問事業の充実
子育てへの負担、不安を抱える家庭に対して、育児・家事支援や訪問相談を行いました。
- 八王子版ネウボラの実施(再掲)
八王子版ネウボラとして、妊婦面談の実施や「はちおうじっ子 子育てほっとライン」、「出産直後の産婦の心身のケアを助産師が行う産後ケア事業(訪問型)を行い、妊娠期からの切れ目のない相談・支援体制の充実につなげました。
- 子育てひろばの充実
早期からの支援につなげるため、児童館では妊産婦を対象とした「プレママ・プレパパ児童館体験」の開催や、乳幼児の保護者の孤立化を防ぐための仲間づくりのプログラムを実施する「乳幼児クラブ」などを開催しました。(実施回数:2,357回、参加者数:27,380人)

施策40 児童虐待防止ネットワークの充実

- 地域ブロック会議中学校区分科会
中学校区ごとに各関係機関が連携し、個別のケースについて対応を検討しました。
- 居所不明児への対応強化
乳幼児健診未受診者、未就園児、不就学児など居所が不明な児童について関係機関が連携し、支援が必要な家庭の早期発見に努めました。
- オレンジリボンキャンペーンの推進
児童虐待防止推進月間中(11月)、マルベリーブリッジやいちょう祭り、オレンジリボンを配布するなどの児童虐待防止についての啓発活動を行いました。
- 児童虐待防止研修の充実
小、中学校、保育所、民生委員のみなさんを対象に、児童虐待防止研修を実施しました。
- SOSカード(こどもあんしんカード)の配布
新小学1年生を対象にSOSカード(こどもあんしんカード)を配布しました。

施策41 社会的養護を必要とする子どもへの支援の充実

- 里親制度の普及啓発・里親開拓の推進
里親・里子の体験発表と講演会「養育体験発表会」を実施し、里親制度の周知を図りました。また、八王子児童相談所との連携のもと、養育体験発表会で相談ブースを設置しました。その他、さまざまな場で里親制度理解のパネルを展示しました。

施策42 外国人家庭への子育て支援の充実

- 多文化共生に対する啓発の推進
外国にルーツを持つ子ども達が日本で教育を受けるとき、言葉や文化の違いなどにより、多くの課題が存在しています。これらの状況を踏まえ、外国にルーツを持つ学齢期の子ども達の現状や、子ども達の対面する課題に関する講演会「外国にルーツを持つ子どもの学びのために ～言葉の壁、文化の壁を越えて～」を開催しました。(平成31年3月2日開催、参加者数:25名)

●多言語版子育て情報の発信等

八王子国際協会への補助事業として「日本語を母国語としない親子のための高校進学ガイダンス」を支援し、中学・高校教師の協力を得ながら、日本の教育制度の説明や進学に関するアドバイスを、6言語の通訳を配して実施しました。(平成30年10月28日開催、参加者数:32名(生徒13名 保護者など19名))
また、外国語の母子健康手帳を配布しました。(中国語版、タガログ語版、英語版、インドネシア語版、韓国・朝鮮語版、スペイン語版、ベトナム語版及びタイ語版)さらに、子ども家庭支援センターの事業を紹介するリーフレット「のびのび子育て」を多言語(英語、中国語、韓国・朝鮮語及びタガログ語)で作成し、配布しました。

指標(★は事業計画に掲載しているもの)

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	29年度 実績値	30年度 実績値	31年度 目標値
39	妊婦健康診査 受診率★	母体への負担や不安が大きい妊娠早期から、保健指導や相談支援を行い、個々の家庭が抱える問題を把握し、適切な支援を継続することで、児童虐待を予防	74.0%	75.9%	79.6%	75%
	こんにちは赤ちゃん事業 訪問率★		93.0%	92.5%	91.7%	93%
	3~4か月児健康診査 受診率		96.0%	96.4%	96.7%	100%
	産前・産後サポート事業の実施(再掲)	産前・産後期に、訪問相談の専門員や家事・育児ヘルパーを派遣する事業の実施	-	実施 (延180人)	実施 (延217人)	実施
	養育支援訪問事業 訪問件数★	子育ての負担を感じる家庭への育児・家事支援や訪問相談を実施	-	1,848件	2,516件	2,707件
40	地域ブロック会議中学校区分科会の実施	中学校区ごとに要保護児童対策協議会を実施し、関係機関の連携を強化	10地域	29地域	35地域	37地域
	「子ども支援ワーカー1級」を付与する職員数	子ども支援スキルアップ研修により、ケースマネジメントや人材育成に取り組む職員を育成	7人	9人	9人	20人
	児童虐待防止研修の実施	学校や児童福祉施設の職員に向けて、児童虐待防止に関する研修を実施	-	実施	実施	実施

自己評価

施策	評価	
39	A	子育てひろばや親子向け講座などに加え、妊婦面談、子育てほっとラインや産後ケア事業(訪問型)により、児童虐待の予防・早期発見につながる仕組みづくりを多面的に実施しました。子育てひろばnoでは親子向け講座の充実を図りました。
40	B	様々な団体と連携し、市民への児童虐待防止に向けた啓発を進めるとともに、関係機関に対して児童虐待防止研修を実施しました。
41	B	図書館部と連携して里親制度に関する図書の巡回展示や里親へのインタビューの広報掲載など、社会的養護が必要な子どもへの支援の周知活動に取り組みました。その結果、新聞に掲載されるなどの反響もありました。
42	B	外国にルーツを持つ学齢期の子ども達の現状や子ども達の対面する課題に関する講演会を開催したほか、日本語を母国語としない親子を対象に日本の教育制度の説明や進学に関するアドバイスを行う高校進学ガイダンス(八王子国際協会への補助事業)により、子どものいる外国人家庭を支援しました。

妊婦面談の実施や子育てほっとラインの周知及び産後ケア事業を開始するなど、妊娠から出産・育児まで、切れ目のない情報提供と支援を充実させることで、児童虐待の予防や早期発見・早期対応に取り組みました。また、中学校区ごとの地域版実務者会議を推進し、虐待防止ネットワークの充実を行うなど、子どもと家庭への支援体制の充実を図りました。

A:目標以上の成果が得られた B:計画・目標どおりに達成できた C:計画・目標どおりに達成できなかった D:達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

--	--

今後の課題・令和元年度(2019年度)以降の施策の展開

--

障害児支援の充実

めざす姿

障害のある子どもを支えるネットワークが充実し、できるだけ早い時期から子どもと保護者への切れ目のない支援が行われており、子どもが地域の中で安心して成長しています。障害のある子どもの特性や成長に合わせた支援や居場所づくりが進んでおり、子どもが将来、社会参加や自立した生活を実現するための力が育まれています。

平成30年度(2018年度)の主な取り組み

施策43 障害のある子どもの支援体制の充実

- 障害者地域自立支援協議会子ども部会による施策の推進 障害者地域自立支援協議会子ども部会を3回開催し、障害児のライフステージに即した切れ目のない支援に関する現状把握と情報の共有を行いました。
- 障害児支援に関する切れ目のない情報提供の充実 はちおうじっ子・切れ目のない支援事業では、保護者や子ども本人が、自身の成長を記録・保存できる「マイ・ファイル」を作成し、保護者と医療機関や保育園幼稚園等の関係機関が連携して子どもの成長をサポートするために、就学前までの子どもの成長を記録する「八王子版ネウボラ乳幼児手帳」をあかちゃん訪問の際に配布しました。また、障害児のライフステージ毎に想定される課題と、その相談先を一覧としたパンフレットを作成しました。
- 「就学支援シート」活用の推進(再掲) 次年度に入学予定の全ての子どもの保護者に、リーフレット「就学支援シートを使ってみませんか」を改正し、より分かりやすくすることで周知・啓発を進めました。また、園や小学校の教職員を対象に、シートの書き方や活用のしかたの研修会を、他市該当園にも拡大し、実施することでよりシートの活用を図りました。(年2回、参加者数:計128名)

重点施策12

施策44 障害の早期発見・早期支援の充実

- 発達相談の充実 保健福祉センターにおいて、地域の関係機関と連携しながら、心理発達相談を行いました。
- 巡回発達相談の充実 幼稚園・保育施設で、臨床心理士による巡回発達相談を実施し、担当する保育士に的確なアドバイスを行い、保育支援につなげました。(実施件数:300回) また、平成30年度(2018年度)から「社会福祉法人 武蔵野会」への委託により、保護者面談をあわせて実施する巡回発達相談を試行的に開始しました。
- 障害の早期発見・早期支援の充実 発達障害児支援事業 小児障害メディカルセンター内の発達障害児支援室「からふる」にて発達障害のある、またはおそれのある児童に対し早期発見・早期療育をおこなうことにより、その児童や家族が安心した生活が送れるように、相談支援事業・療育支援事業・普及啓発事業・その他市長が必要と認める事業を行いました。平成29年度(2017年度)に協調運動障害のある就学児を対象に新たな療育グループを増設し引き続き更なる普及啓発に努めました。

施策45 障害児保育や障害児の居場所づくりの推進

- 教育・保育施設や学童保育所での障害児受け入れの充実 「発達障害地域支援講習会」(ハッチネットセミナー)として医師会との連携により研修を実施し、保育施設における障害児の受け入れ体制の充実を図りました。学童保育所では職員を加配し、1施設あたり最大4人まで障害児を受け入れました。また、加配認定されない児童であっても受け入れをすることで、居場所づくりを推進しました。このほか、小・中学校では、特別支援教育に関する施策と目標、そのための具体的な取り組みを示した「八王子市第三次特別支援教育推進計画」をもとに進めました。(平成28～30年度(2016～2018年度)までの3か年計画)

<ul style="list-style-type: none"> ●子育てひろばの充実 ●児童発達支援・放課後等デイサービスの充実 	<p>親子つどいのひろば「ゆめきつず」では、発達支援アドバイザーの相談会を定期的 に開催し、子どもの発達についての相談を受けました。</p> <p>児童発達支援・放課後等デイサービスの施設数、利用者ともに増加傾向にある ため、児童通所施設事業者も障害者地域自立支援協議会子ども部会の部会員 として加わり、現状の課題など活発な意見交換を行いました。</p>
---	---

指標

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	29年度 実績値	30年度 実績値	31年度 目標値
43	障害児支援に関する切れ目 のない情報提供の充実	子どもの成長・発達に応じた、継続的なき め細かい情報提供の充実	-	実施	実施	実施
	新入生に占める「就学支援 シート」の利用割合	支援や配慮が必要な子どもの情報が小学校への 引き継がれ、個別支援の継続を推進	7.2%	11.5%	(集計中)	9.8%
44	巡回発達相談の実施件数	幼稚園・保育園への巡回発達相談の充 実	276回	324回	300回	329回
45	放課後等デイサービスの利用者数	障害がある子どもが、放課後などに安心して 過ごせる居場所の拡充	593人分	960人分	1,012人分	-

自己評価

施策	評価	
43	B	障害者地域自立支援協議会子ども部会において、障害児とその家族が地域で安心して暮らせるよう、ライフス テージ毎の課題整理を行うなど、切れ目ない支援に関する協議を行いました。 また、はちおうじっ子・切れ目のない支援事業(マイ・ファイル事業)では、保護者や子ども本人が、次のライフ ステージへ進む際に、支援が円滑に引き継がれるよう、昨年度に引き続き自身の成長を記録・保存できる「マイ ・ファイル」を作成し、切れ目のない支援につなげることができました。
44	B	発達相談については、関係機関との連携を図るとともに、「八王子版ネウボラ乳幼児手帳」を保護者と一緒 に活用し、効果的な発達支援を行いました。また、巡回発達相談については着実に実施し、障害の早期発 見・早期支援を行いました。
45	B	放課後等デイサービスの施設数、利用者ともに増加傾向であるため、安心して過ごせる居場所において、 学齢期における放課後の余暇活動や生活能力の向上をめざした訓練を行うなど、障害がある子どもが家 族とともに安定した日常生活を送れるような支援を行うことができました。

継続的な取組である就学支援シートや、平成29年度(2018年度)から作成を開始した「マイ・ファイル」の活用により、関
係機関の連携が進んでおり、巡回発達相談による早期からの支援体制も充実・強化され、切れ目のない支援につなげて
います。

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

--	--

今後の課題・令和元年度(2019年度)以降の施策の展開

--

めざす姿

ひとり親家庭への総合的な支援が充実し、母親や父親が継続的な就労によって経済的に安定しており、安心して子育てができています。家族がふれあうゆとりある生活を送っており、子どもたちは、未来への希望を持ちながらいきいきと学び、心豊かに成長しています。

平成30年度(2018年度)の主な取り組み

施策46 ひとり親家庭の就業・自立支援の充実

重点施策13

- 「母子家庭等就業・自立支援センター事業」の実施

母子家庭等就業・自立支援センター事業として、就業支援事業(就労アシスト八王子にて実施)、就業支援講習会等事業(ひとり親家庭に役立つセミナーやパソコン講座を前後期に開催)、養育費相談事業(養育費面会交流講座:1回・離婚をめぐる法律講座:1回・弁護士による養育費などの個別相談:12回)を実施しました。

- 母子・父子自立支援プログラムの策定など

各家庭の実情に応じた母子・父子自立支援プログラムを策定しました。(42件)また、就労支援(73件)、高等職業訓練促進給付金の支給(34名)、自立支援教育訓練給付金の支給(28名)などにより、自立に向けた支援を行いました。

施策47 ひとり親家庭への生活・経済的支援の充実

- 経済的支援の充実

児童扶養手当・児童育成手当の支給、ひとり親家庭などへの医療費助成事業の実施により、ひとり親家庭への経済的支援を行いました。また、ひとり親家庭の自立をサポートするため、母子父子福祉資金の貸付を行いました。(母子福祉資金貸付件数:249件、父子福祉資金貸付件数:13件)

- ひとり親家庭への配慮の確保

保育所・学童保育所などの入所配慮や、市営住宅の入居者募集における優遇抽選制度を実施しました。

- ひとり親家庭の生活の支援

ひとり親家庭の生活を支援するため、ホームヘルパーを派遣しました。(派遣世帯:21世帯、派遣回数:470回)また、母子生活支援施設への入所者支援(2世帯)を行いました。

施策48 ひとり親家庭で育つ子どもへの支援の充実

- 学習支援の実施
- 生活力の向上に向けた体験活動の実施

児童館職員の専門性を活かし、ひとり親家庭の子ども(小学校5・6年生)の生活力向上・学習支援事業「なんでもチャレンジ」を実施しました。(全5回 延べ参加者数:91名)参加者からは「学生ボランティアと一緒にいて楽しかった」「大勢でひとつのことをやるのが楽しかった」「英語や算数がすこしわかってよかった」などの感想があがっています。

また、児童扶養手当全部支給世帯の中学生に対して、学習支援教室を実施しました(登録生徒数:162名、開催回数:各教室100回)。さらに学習支援教室に通えない事情などがある中学3年生に対し、家庭教師派遣事業「ゆめ★はち先生」を実施しました(登録生徒数:20名、派遣回数:621回)。

- 親子心のふれあい事業の実施

ひとり親家庭医療費助成(マル親医療証)対象世帯にコニカミノルタサイエンスドーム入館料及びプラネタリウム観覧料の減免事業を実施しました。(免除対象人数:大人(高校生を含む) 298名 子ども(4歳以上中学生以下) 414名)また、ひとり親家庭の親子を対象に、クッキング&交流会を12月に開催し、10世帯の参加がありました。

施策49 ひとり親家庭への相談・情報提供の充実

- 母子・父子自立支援員による相談・支援の実施
- ひとり親家庭への情報提供の充実

母子・父子自立支援員による相談・支援を行いました。(年間相談者数:4,772名)また、八王子駅南口総合事務所での出張相談を行いました。(年間利用者数:12名)
ひとり親家庭を対象とした制度などをまとめた「ひとり親家庭のしおり」を作成・配布しました。また、ひとり親家庭の方に役立つ支援情報を月1回程度メール配信する「はち☆エール」を昨年度に引き続き実施しました。(平成30年度(2018年度)末登録者数:1,381名)

指標

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	29年度 実績値	30年度 実績値	31年度 目標値
46	母子・父子自立支援プログラム策定件数	家庭の状況に応じた自立支援プログラムの策定による自立・就労支援の充実	25件	64件	42件	60件
	母子家庭の就業者のうち、正規職員・自営業の割合	母子家庭への総合的支援による、安定した就労の促進	35%	50%	33%	40%
47	ひとり親家庭の交流会の実施	ひとり親家庭の親同士が交流する機会の充実	-	実施	実施	実施
48	ひとり親家庭への学習支援の実施	ひとり親家庭で育つ子どもたちへの学習支援の実施	-	拡充	実施	実施
49	ひとり親家庭へのメールマガジンの発行	ひとり親家庭に向けたメールマガジンの発行	-	実施 (12回)	実施 (14回)	実施

自己評価

施策	評価	
46	B	母子家庭等就業・自立支援センター事業(就業支援講習会・養育費相談会)や給付金支給事業を実施しました。また、パソコン講習会に就業支援専門員が出向き、制度の説明をしたことにより、ひとり親家庭の父母の自立促進に向けた就業支援に繋がりました。
47	B	手当や貸付などの経済的支援、ホームヘルパー派遣や母子生活支援施設の入所措置などにより、ひとり親家庭の生活を支援しました。
48	A	子どもの生活力向上事業では、ひとり親家庭の小学生に対し家庭学習のきっかけづくりや買い物・調理などの体験活動を実施しました。実施後の保護者アンケートでは、参加してよかったとの回答が92%でした。また、中学3年生に対し家庭教師型の学習支援を実施し、学習習慣の定着を行い、高等学校進学率95%を達成しました。親子ふれあい事業の実施後保護者アンケートでは、満足度が100%となりました。
49	B	母子・父子自立支援員がひとり親対象のセミナーで制度や相談窓口を周知し、各家庭の状況に応じてきめ細やかな相談支援を実施しました。また、平成28年(2016年)7月から配信を開始したひとり親家庭支援情報メールマガジン「はち☆エール」の配信で、制度の周知に努めました。

様々な環境に置かれたひとり親家庭に対して、生活基盤の安定化や教育力の向上を図るため、自立した生活の実現や子育てに係る負担の軽減に向けた相談や支援、ひとり親家庭の子どもを対象に体験活動・学習支援事業を実施し、本市におけるひとり親家庭の子育て支援の充実・向上を図りました。

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

--	--

今後の課題・令和元年度(2019年度)以降の施策の展開

--

子どもの貧困対策の推進

めざす姿

貧困家庭で生まれ育った子どもの将来が、その環境に左右されることのないよう、必要な支援の充実と教育の機会均等が図られています。すべての子どもたちが未来への夢と希望を持ちながら、自立に向けて成長しています。

平成29年度の主な取り組み

施策50 子どもへの教育・生活支援の推進

重点施策14

- 生活力の向上に向けた体験活動の充実

子育て支援課と児童館が連携し、ひとり親家庭の子ども(小学校5・6年生)を対象とする、体験活動・学習支援事業「なんでもチャレンジ」を実施しました。(午前中に体験活動、午後に学習支援を実施:全5回、延べ参加者数:91名)
また、児童館では小・中学生のロールモデルとなる大学生による学習の場「大学生とまなぼう」「中学生学習タイム」を実施しました。(実施回数:24回、参加者数:79名)

- 子どもの貧困対策に取り組む市民活動団体などへの支援の実施

市民活動支援センターが隔月で発行している広報紙において、若者のセカンドチャンスに応援しようと無料塾を運営している「慈有塾」や貧困家庭に育った子どもたちのために無料で学習支援を行っているNPO法人八王子つばめ塾について情報発信を行いました。(発行部数:5,000部、市民センターなど市の施設で配布)

また、昨年度に引き続きフードバンク八王子への委託実施により「地域子ども支援事業」に取り組み、子ども食堂や無料塾等、地域で子どもの居場所づくりを行う団体の支援やネットワークづくりを行いました。新たに子ども食堂2団体、無料塾1団体が登録しました。(連絡会6回、研修会1回開催。登録団体数21団体)

- 学習支援の実施

引き続き、生活保護受給世帯および児童扶養手当全部支給世帯の中学生を対象に、無料の学習支援教室を実施しました。会場数は12か所で変わりませんでしたが、一部の会場を変更し、自宅の近くで受けられるようにして、機会の充実に図りました。

また、大学生中心の講師の下、担当制を実施することにより、一人一人の子どもに目を向け、内容を充実することができました。

～学習支援教室参加者より～

生徒より

「分かりやすく教えてくれるのでうれしいし、楽しいです。勉強が楽しくなりました。」

「成績がすごくあがった。参加してから、テスト勉強をするようになった。」

保護者より

「勉強時間が増えて良かったです。」

施策51 保護者への就労・経済的支援の推進

- 就労支援の充実

平成29年度(2017年度)と同様に支援員は3名体制で就労支援にあたり、各支援先につなぐ件数を増加することができました。

- 経済的支援の充実

児童扶養手当の支給や母子・父子福祉資金の貸付など、子育て世帯への経済的支援を実施しました。

指標

(目標値は策定時のもの)

施策	指標	内容	策定時 数値	29年度 実績値	30年度 実績値	31年度 目標値
50	学習塾(無料学習教室)設置数	生活困窮者家庭の子どもに対する学習支援の充実	4か所	12か所	12か所	拡大
	生活保護家庭における 中学校卒業者の進学率	生活保護家庭における、学習支援による 進学率の向上	88.0%	97.4%	92.1%	95%

自己評価

(目標値は策定時のもの)

施策	評価	
50	A	昨年度に引き続き、対象になる子どもの学ぶ機会の充実を図りました。また、内容も充実することができ、その結果、学習支援教室参加者の進学率は100%、生活保護家庭における中学校卒業者の進学率は90%以上とすることができました。
51	A	各支援先につなぐ件数を増加することができました。(ハローワーク依頼件数 380件、就労アシスト八王子依頼件数 417件)また、児童扶養手当の支給や母子・父子福祉資金の貸付など、子育て世帯への経済的支援を着実に実施しました。
所得の少ない世帯やひとり親家庭の子ども家庭における学習や生活習慣の向上を図るため、保護者に対しては就労支援などの自立支援や養育費確保などの生活支援、手当の支給などの経済的な支援を行い、生活環境を充実させるとともに、子どもたちに対しては、体験活動の機会の提供及び学習習慣の定着や高等学校進学に向けた学習支援を行いました。		

A: 目標以上の成果が得られた B: 計画・目標どおりに達成できた C: 計画・目標どおりに達成できなかった D: 達成できず困難な課題がある

児童福祉専門分科会による評価

--	--

今後の課題・令和元年度(2019年度)以降の施策の展開

--

まぐまぐ★コラム